

# JCA NEWS



Japan Communication Association (JCA) Newsletter

日本コミュニケーション学会ニュースレター



ARATA MIYAZAKI (中部支部)

## CONTENTS

121  
2019.6

1. 第49回年次大会実行委員長挨拶	.....	1	7. 支部ニュース	.....	14
2. 第49回年次大会について	.....	3	北海道支部	.....	14
3. 2018年度 第4回理事会報告	.....	4	東北支部	.....	14
4. 学術局報告	.....	7	関東支部	.....	14
ジャーナルに関するお知らせ	.....	7	中部支部	.....	15
2018年度ジャーナル掲載論文	.....	8	関西支部	.....	15
学会賞の選考結果について	.....	9	中国・四国支部	.....	16
5. 事務局報告	.....	11	九州支部	.....	16
6. 広報局便り	.....	13	8. メールアドレス登録のお願い	.....	17
			9. 編集後記	.....	17

## 巻頭言

### 「都市とコミュニケーション」という 大会テーマからふと連想したこと

副学術局長（年次大会担当） 松本健太郎

2019年2月14日、うちのゼミ生に誘われて『東京クロノス』（MyDearest 株式会社）というVRゲームのファンミーティング「第5回制作共犯者ミーティング」を見学してきた。場所は渋谷にある東京カルチャーカルチャー。150席ほど用意された会場は超満員で、来場者のうち7、8割を占める若い女性ファンの目当ては、街小路颯太というキャラクターの声を担当する2.5次元ミュージカル俳優だったようである。

『東京クロノス』とはゲームで読む小説、いわゆる「ビジュアルノベル」のVR版ともいえる。PlayStation VR や Oculus Go のようなヘッドマウントディスプレイを装着し、CG で再現された東京の街並みを背景として、登場人物たちの会話が展開されていくことになる。そのバーチャルな空間の中で、プレイヤーがヘッドセットを着けて渋谷のスクランブル交差点に立ち周囲をみわたすと、JR 渋谷駅や SHIBUYA 109、センター街の入口など、お馴染みの景色が目に飛び込んでくる。それにしてもなぜ、そのゲームのファンたちは、感覚器官を覆うガジェットを身にまとい、ゴーグルの中の渋谷で、登場人物との、あるいは登場人物同士の架空のコミュニケーションを消費するのだろうか。

参加して気づいたのだが、上記のファンミーティングは、なかなか巧妙な作りである。そもそも『東京クロノス』は、ある種の「参加型文化」の装いのもとに企画されたゲームであった。クラウドファンディングをつうじて国内外の1,662名から約1,800万円の資金を集め、2019年3月の発売日に先立って、上述のものをいれて6回の「制作共犯者ミーティング」が開催されている（このイベントの名称そのものもまた、「参加型」という幻想をファンたちに付与するものといえる）。ちなみに筆者が参加した第5回目のミーティングでは、声優をつとめるイケメン俳優・植田圭輔を目掛けて集まった女性ファン向けに、Twitter での情報拡散を呼びかける仕掛けや、あるいは、ファン同士の紐帯を構築するためのコミュニケーション・ゲームなどがトークイベントの合間に挟み込まれていた。さらにそのイベントの様子は、リアルタイムでネット配信され、また、後日 YouTube にアップされてコンテンツ化されている。制作サイドからみれば、この種のミーティングは、ファンをうまく動員し、それをゲームの販促へと結びつけるためのアプローチとして有効性をもつのだろう。

むろん『東京クロノス』が描き出す渋谷は“本物”の都市ではないし、また、そこで登場人物が交わす会話は“本物”のコミュニケーションではない、と切って捨てることもできよう。しかし実際にそのファンたちは、ゲームを通じてコンテンツ化された「都市」と「コミュニケーション」を消費し、また、ソーシャルメディアを通じて、そのゲームについてのコミュニケーションを展開し、さらには、イベント参加のために現実の渋谷へと集まってファン同士で繋がる。今回たまたま20歳以上はなれた学生に案内されてその構図の一端を垣間見ることができたわけだが、そこで起きている文化事象を興味深いと感じつつ、他方で、いまの若者たちが生きるメディアスケープ/コミュニケーション文化が予想以上に複雑かつ多層的で、私たち研究者にとって見えにくくなっているのかを思い知らされた気がしている。

現代人の情報世界は多種多様なデジタルメディア、あるいはソーシャルメディアによって急速に組み変わりつつある。かつて“ガラケー”と呼ばれた多機能型携帯電話とは異なり、アプリを加除することでいくらかでも機能をカスタマイズできる“スマホ”のように、昨今の若者たちはLINE、Twitter、Instagram、TikTokなど、手許にある複数のコミュニケーション媒体を組み合わせ（それも自らの所属する文化的グループの基準に応じて）情報世界を巧みにカスタマイズしようとする。そしてそのような技術的前提の変化は、ポストモダン状況における“文化の島宇宙化”とも称される傾向、つまるところ、細分化された小集団、あるいはトライブカルチャーを社会のなかで林立させる遠因ともなっている——まさに『東京クロノス』の“集い”は、そのようにして成立した共同性の一例にすぎない。

現代において「コミュニケーション」とは、おそらく、時代を語るもっとも重要な鍵語のひとつになりうると思われるし、また、そのような現況のなかで、今後JCAが果たすべき役割はさらに大きくなって然るべきとも考えられる。時代の要請／想像力に応えるためにも、学会での知的交流をつうじて、私たちが「コミュニケーション学」をいかにデザインしていくべきか、いろいろと考えさせられる今日この頃である。

## 学術局報告 第49回大会について

第49回大会実行委員長 松本健太郎

第49回大会は2019年6月8日および9日の両日、東京九段の二松學舎大学で開催される運びです。いま現在、学術局および実行委員会の先生方にご尽力いただき、大会の準備を順調にすすめているところです。皆様のご来場を準備万端で歓迎できるよう、万全を期したいと思います。

大会のテーマは「都市とコミュニケーション」です。会場校がある東京もそうですが、今日における都市とは多種多様なテクノロジーやカルチャーが混交し、そこから新たな想像力が流動的に生成される刺激的な場と化しています。都市を、インバウンド観光客のそれを含めて様々な文化が混じりあうコンタクトゾーンとしてとらえた場合に、現実／仮想それぞれの空間を舞台として展開されるコミュニケーションの諸相に着眼することは、本学会としては意義があることなのではないでしょうか。むしろ「都市とコミュニケーション」といった場合、そこには様々な論点が付随し、また、それらの関係性に対する様々な読み込み方がありうるわけですが、今回の基調講演およびシンポジウムではとりわけ「観光」という視座に依拠しながら、「都市とコミュニケーション」について多角的に討議したいと構想しております。

大会初日の8日には獨協大学の山口誠先生を基調講演にお招きし、「レイトツーリズム（＝後期観光）」を鍵語として、観光的な視座から「都市、メディア、コミュニケーション」についてお話いただくことになっています。メディア研究、歴史社会学、観光研究をご専門とする山口先生はこれまで、たとえば『英語講座の誕生：メディアと教養が出会う近代日本』（2001、単著、講談社）、『グアムと日本人：戦争を埋立てた楽園』（2007、単著、岩波書店）、『ニッポンの海外旅行：若者と観光メディアの50年史』（2010、単著、筑摩書房）、『「地球の歩き方」の歩き方』（2009、共著、新潮社）、『複数の「ヒロシマ」：記憶の戦後史とメディアの力学』（2012、共著、青弓社）、『「知覧」の誕生：特攻の記憶はいかに創られてきたのか』（2015、共編著、柏書房）を出版されるなど、輝かしい御業績を残されてきました。今回の基調講演でも、会員の皆様の知的関心にかなう素晴らしいお話をしていただけると確信しております。ぜひ、奮ってご参加ください。なお、基調講演後のシンポジウムでは、関東支部長の小西卓三先生（昭和女子大学）の司会のもとで、フェリス学院大学の藤巻光浩先生、立命館大学の日高勝之先生にご登壇いただき、熱のこもった討議が展開されることになろうかと思えます。こちらのほうも、ご期待くださいませ。

そのほか大会期間中には、各種のパネルや研究発表、さらにはRuth Beerman氏による特別講演や日米交歓ディベートなど、多彩なプログラムが企画されております（もちろん会員の皆様の学術的交流の場＝懇親会も！）。ぜひ会員の皆様には、ともに会場での議論を盛り上げていただければと思います。それでは大会当日にお会いしましょう。どうぞよろしくお願い申し上げます！



## 2018 年度 第 3 回理事会報告

2019年3月29日(金)13:00から17:00まで、東京駅前サピアタワー9階の「関西大学東京センター」にて2018年度第3回理事会在開催された。20名の理事(委任状6名を含む)の出席により理事会は成立した。

### 【会長挨拶】

お忙しい中、理事会へのご参加ありがとうございます。本日は年次大会関係の議題が多くあります。また、一部理事の入れ替わりがあり、後ほど説明させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【報告事項】

#### 【1】第49回年次大会

##### 1. 学術局(青沼)

6月8、9日に年次大会を二松学舎九段キャンパス1号館にて開催する。3月18日学術局で準備委員会を開催、2月にWebを通して開催情報の連絡を開始している。

##### 2. 会場担当(青沼)

二松学舎九段キャンパス1号館に年次大会用の部屋が確保されている。

#### 【2】各局および担当理事報告

##### 1. 事務局

###### (1) 入退会者および会費納入報告(高永、菅家)

- ・2019年3月現在の会員全体数と内訳  
一般会員:354名、学生会員:11名、準会員:1名、計:366名
- ・入退会者の確認が行われた。

###### (2) 会計報告(松島)

- ・6月までに監査をすませて報告する予定。

###### (3) 支部助成金(松島)

- ・早めの申し込みをお願いしたい。

##### 2. 学術局

###### (1) ジャーナル関連(大橋)

- ・日本コミュニケーション研究 第47巻 第2号 の入稿が終わり、校正を開始している。
- ・日本コミュニケーション研究 第48巻 第1号 査読者が決定し、現在査読中。
- ・運営委員について  
新たに東京福祉大学の内藤伊都子先生に協力をお願いし、お引き受けいただいた。

###### (2) J-Stage 関連(大橋)

- ・過去のジャーナル(SCE及びHCR)の扱いについて、再検討の必要がある可能性が報告された。

### 3. 広報局

#### (1) ニューズレター120号の発行と121号の予定 (田島)

ニューズレター120号(2月号)を発行した。次号121号(6月号)は5月末日までに発行予定。

#### (2) 他学会への年次大会案内送付について (田島、石橋)

大会チラシの完成後に年次大会の案内を出す予定

異文化教育学会、多文化関係学会、日本マス・コミュニケーション学会、表象文化論学会、国際ビジネスコミュニケーション学会、映画英語教育学会、外国語教育メディア学会、大学英語教育学会、日本ディベート協会、SIETAR JAPAN、日本語用論学会。

今回のみ、全国高校英語ディベート連盟への送付が追加された。

#### (3) 第49回年次大会の広告・ブース出展企業について(石橋)

本年度の協力企業各社との交渉の経過が報告された。

#### (4) Web 関連 (石橋)

以下が Web に掲載されたことが報告された。

- ・JCA ニューズレター (120号) (掲載日 2019年2月1日)
- ・年次大会案内、ジャーナル投稿募集、関連学会案内などの多数掲載

### 【3】各支部報告

各支部より報告が行われた (内容は支部ニュースを参照)。

### 【4】各理事報告

#### 1. 50周年担当理事 (宮原)

- ・50周年記念出版として、テキストの出版を計画している。出版社との交渉を進めていくための準備予算を確保することが決まる
- ・Asia-Pacific Academic Alliance for Communication and Journalism Association、日本ヘルスコミュニケーション学会、ICAなどの他学会との連携について報告され、引き続き連携を進めていく方針となる。

### 【審議事項】

#### 【1】第49回年次大会関係

##### (1) 補欠人事について

副学術局長 (年次大会担当) の途中交代について審議され、二松学舎大学の松本健太郎先生の就任が承認された。

##### (2) 論文査読

査読結果が報告された。発表論文7本、パネル6つが採択された。

##### (3) プログラム関係

- ・大会プログラムとスケジュールが審議され、承認された。
- ・学術講演、シンポジウム、特別講演およびディベートを無料・一般公開することについて審議され承認された。
- ・コミュニケーション教育研究会助成金申請、日米交歓ディベート関連の費用負担について審議され、承認された。
- ・今後の研究会助成金の使用用途と申請について審議され承認された。

- ・大会参加費、ポスター・チラシ案、名札作成、プログラム・プロシーディング原稿入稿等について確認が行われた。
- (4) 大会参加の Web 申し込みについて  
第 49 回年次大会受付システムについて承認された。

## 【2】各局関係

### 1. 事務局

- (1) 2019 年度の業務委託契約について  
業務委託契約について審議が行われ承認された。
- (2) マイページについて  
・マイページの項目について、入会申込書の項目と合わせて審議され、確認と準備を進めた上で、次回理事会での継続審議となる。

### 2. 学術局

- (1) 学会賞関連  
次の論文の学会賞・奨励賞が決まった。著書の部は該当なし。  
-学会賞・論文の部：松島綾「認識可能性の描線—『狂気の歴史』の読みを通じたレトリック再考—」  
-奨励賞・論文の部：菅野遼「修辞学的人类学的機械—1964-1965 年万国博覧会とアンドロイド・リンカーン—」

### 3. 広報局

- (1) Web 関連  
・HP の改修について、デザイン案が審議された。審議の内容をもとに確認と準備を進めることとなった。また、Web の URL の変更が決まった。

## 【3】その他

- 1. 今後の年次大会会場について  
会長が中心となり、継続して検討することになる。
- 2. 次期体制について  
会長より改選する次期理事が推薦され、承認された。また、会長より次期監事が推薦され、総会に諮られることとなった。

## 【4】次回理事会開催日時・会場

6月7日（金）14:00～16:00、二松學舎大学 九段キャンパス 1号館にて開催予定。

## 学術局報告

### ジャーナルに関するお知らせ

現在『日本コミュニケーション研究』(Japanese Journal of Communication Studies)の第47巻2号の発行に向けた最終準備をしています。今回の学会誌には4本の研究論文と2018年度年次大会での基調講演者の向谷地生良氏の論考が掲載されます。また、第48巻1号の締め切りが1月末に終了し、5本の論文が投稿されました(再投稿論部を含む)。こちらは11月末の発行を目指し、査読作業が進められています。加えて、現在第48巻2号(2020年5月末発行予定)への投稿論文を募集中です。締め切りは7月末日ですので是非皆様の研究結果を論文としてご投稿ください。投稿は、ワード等で作成された「論文」、「シノプシス」、「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、の3つのファイルを添付ファイルとして、指定メールアドレスに送付するという形でお願い致します。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。投稿される際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

To: [journal@\[caj1971.com\]](mailto:journal@[caj1971.com])

CC: [ohashiri@\[ouj.ac.jp\]](mailto:ohashiri@[ouj.ac.jp])

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の大橋 ([ohashiri@\[ouj.ac.jp\]](mailto:ohashiri@[ouj.ac.jp])) までご連絡下さい。可能な限り迅速に対応いたします。皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

(副学術局長:ジャーナル担当 大橋理枝)



## 2018 年度ジャーナル 『日本コミュニケーション研究』 掲載論文

『日本コミュニケーション研究』 第47巻 第1号 (平成30年11月発行)

## 研究論文:

藤巻光浩「レトリカルなメディアとしてのニュークリア・ミュージアム—市場原理万能時代のシ  
ティズンシップの行方—」深澤のぞみ・山路奈保子・須藤秀紹「日本語パブリックスピーキングにおける説得の特徴—書評  
ゲーム「ビブリオバトル」の観察から—」

『日本コミュニケーション研究』 第47巻 第2号 (令和元年5月発行)

## 特別企画:

第48回日本コミュニケーション学会年次大会基調講演

向谷地生良「幻聴さん、いらっしやい—私の観る世界、生きる世界—」

## 研究論文:

松島綾「認識可能性の描線—『狂気の歴史』の読みを通じたレトリック再考—」

菅野遼「修辞学的人类学的機械—1964-1965年万国博覧会とアンドロイド・リンカーン—」

菅野遼「戦争状態の倫理—ニクソン演説をめぐる論争に残されたもの—」

船山和泉「コーチング・セッションにおけるナラティブの協働構築—転回点としてのメタファー  
に注目して—」

## 学会賞の選考結果について

去る2019年3月18日に学会賞の選考委員会を開催し、『日本コミュニケーション研究』第47巻(2018年度)に掲載された論文のうち、松島綾先生が執筆された「認識可能性の描線—『狂気の歴史』の読みを通じたレトリック再考—」を「学会賞(論文の部)」に、菅野長先生が執筆された「修辞学の人類的機械—1964-1965年万国博覧会とアンドロイド・リンカーン—」を「奨励賞(論文の部)」に推薦しました。この推薦結果は3月29日開催の理事会において審議の結果承認されました。松島先生、菅野先生、おめでとうございます!

審査委員会は、以下のようにそれぞれの論文を評価しました。

### 日本コミュニケーション学会 学会賞(論文の部)

#### 「認識可能性の描線—狂気の歴史の読みを通じたレトリック再考—」(松島 綾)

本稿は、フーコーの『狂気の歴史』の第一部第二章の「大いなる閉じ込め」を再読することで、ビーセッカーによって論じられた「意味をなす線」、すなわち「認識可能性の描線 (lines of intelligibility)」について明らかにしていくことを意図した論文である。著者によれば、ビーセッカーは、知の条件として特定の認識を可能にし、差異を範疇として確立する表象関係内にフーコーが見出した権力をレトリックの問題として看破すると共に、権力を歴史的に変化する表象関係の内部に見出し、特定の知のあり方が認識を可能とする表象関係に組み込まれる配置を「認識可能性の描線」として論じたものの、ビーセッカー自身はこの概念について十分に明らかにしなかったという。それに対し、この論文は、認識の体系やその変化、狂気や生産的な権力を軸に、「認識可能性の描線」について論じることを通して、フーコーを中心に批判的レトリック研究の使命の新たな側面を提示した研究論文であり、批判的レトリックが明らかにすべき課題を論じている点で高く評価できる。また、過去の年次大会で開催されたパネル・セッションにおいて発表した内容に加筆・修正を加えた論考であるということから、本学会での活動が研究活動に活かされている点でも評価できる。

### 日本コミュニケーション学会 奨励賞(論文の部)

#### 「修辞学の人類的機械—1964-1965年万国博覧会とアンドロイド・リンカーン—」(菅野 遼)

本稿は、修辞学における歴史研究の新たな可能性を模索するために、「修辞学の文化的物質化」と「物質性の修辞的文化」との隙間に潜む、ひとつの「可能かもしれない」理論的視点のあり方を方向付けることを意図したものである。著者は、物質・修辞・文化という3項によって構成される境界線上の隙間や襞を観察し、修辞学と唯物論の系譜学を再び想像し、修辞学の魂(anima)やその活性化(animation)について考察するために、修辞学の人類的機械としてのアンドロイド・リンカーンを分析した。アンドロイド・リンカーンとは、1964年万博に展示された、ウォルト・ディズニーによって製作された雄弁の自動人形機械である。修辞学と唯物論の関係性、特に「新しい唯物論(New Materialism)」と呼ばれる新領域の理論的意義に着目しつつ、「修辞学の他にもありえた系譜学の可能性」を模索した本稿は、このアンドロイド・リンカーンが、McGee(1982)から現在に至るレトリック・レトリシティとマテリアリティ・マテリアリズムに関する英語圏のコミュニケーション研究者の間での議論の方向転換を示唆することを論述した堅実な論文であり、コミュニケーション研究の貢献

に寄与する、重要な課題を扱った論文である。また、過去の年次大会で行った口頭発表に対して加筆・修正を加えた論考であるということから、本学会での活動が研究活動に活かされている点でも評価できる。

なお、6月8日に開催される年次大会総会で授与式を行いますので、ぜひ皆様もご参加下さい。

## 事務局報告

### 事務局からのご報告とお願い

#### 1. 2019年度年会費の請求について

2019年度の年会費は7月上旬に請求する予定です。

#### 2. 会費滞納による除名とジャーナル受け取りの権利について

過去3年間の会費がすべて未納の場合には、会則第12条および内規6に従い、特別な理由がない限り除名となります。また会則内規5に従い、前年度の会費が未納の場合にはジャーナルをお送りすることができませんのでご了承ください。

#### 3. 会費納入状況の確認について

会費の納入状況が不明の場合には事務局までお問い合わせください。事務局のメールアドレスは、jcom-post[@を入れる]bunken.co.jp です。納入状況をご確認の上、下記の郵便振替口座にお振込みいただくこともできます。なお、振込手数料は各自のご負担にてお願いいたします。

郵便振替口座番号 00160-2-603688

口座名義 日本コミュニケーション学会  
(銀行口座からお振込の場合)

ゆうちょ銀行 (9900)

〇一九 (ゼロイチキュウ) 店 (019)

当座 0603688

ニホンコミュニケーションガッカイ

※海外在住などで振込が困難な方はクレジットカードでの会費支払いにも対応いたします。詳しくは事務局までお問い合わせください。

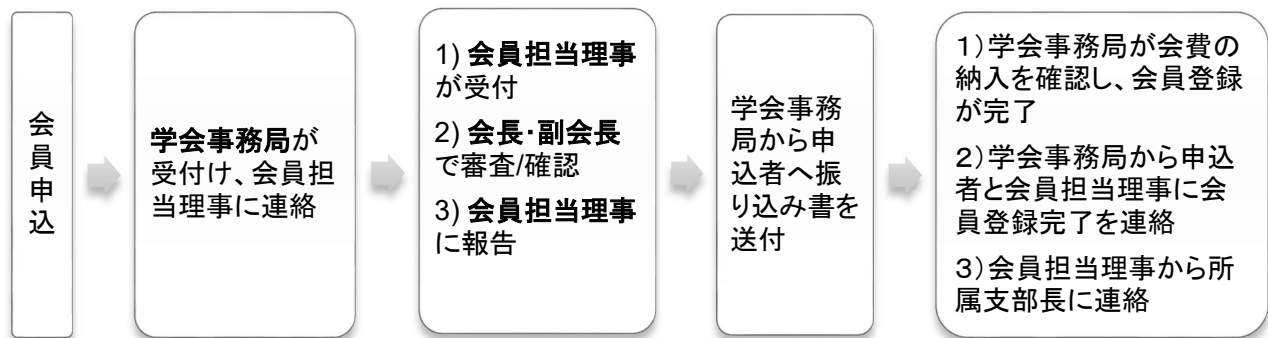
#### 4. 学生会員・準会員登録申請について

学生会員(大学院生対象)、準会員(学部生対象)として登録するには、登録申請が毎年必要です。既会員の申請期限は7月末日です。申請書のフォームは学会ホームページの「会員各種手続き」よりダウンロードし、学生証等のコピーを添付して郵送で事務局までお送りください。事務局の住所は次の通りです。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

日本コミュニケーション学会事務局

入会までの手続き



## 広報局便り

### 広報局からのお知らせ

- ① 事務局と連携して、2019 年度新 HP 稼働を目指し、HP 掲載コンテンツの拡充ならびにレイアウトの見直しを進行中です。既に Web 制作者からデモサイトを受け取り、調整を続けています。
- ② 現在、全国版の ML の構築を計画しております。このニューズレター17 頁のご案内を参照いただき、メールアドレスの登録（または更新）をお願いいたします。
- ③ 広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップロードしております。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。
- ④ 皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。HP にアップロードしたいと思います。
- ⑤ ホームページ (<http://www.caj1971.com>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸甚です。

(広報局長 小山 哲春)

### JCA ニューズレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニューズレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。宛先：田島慎朗 ([tajima-n@\[@を入れる\]kanda.kuis.ac.jp](mailto:tajima-n@[@を入れる]kanda.kuis.ac.jp))

- ① 著書紹介  
会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。  
和文で 250～500 字程度の原稿を受け付けております。
- ② コラム：コミュニケーション教育  
コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。  
和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。
- ③ 書評  
コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評を受け付けております。  
和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。
- ④ NL 表紙の写真  
ニューズレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。(写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。)

# 支部ニュース

## 北海道支部

(支部長 佐々木 智之)

年度末の行事として恒例となりましたJCA北海道支部、JACET北海道支部、HELES（北海道英語教育学会）による3学会合同研究会を、2019年3月3日に北海道科学大学サテライトキャンパスを会場に開催しました。各学会が一つずつ発表を行いました。

HELESからは「小学校英語入門—早期化・教科化で何が変わるのか?」と題して2020年から始まる新学習指導要領をもとに、小学校英語のこれまでを概観し、今後大きく変わること、変わらないことについて、カリキュラム、教材、教員養成、教員研修などの観点から検討する内容でした。

続いてJACETから「外部試験を使った入試選抜方法について考える」と題した意見交換セッションが行われました。司会者（天使大学 目時光紀先生）が外部試験導入の状況を説明し、実際の活用事例をいくつか挙げ、妥当性などを観点にフロアの参加者が少人数グループでディスカッションを行いました。

JCAからは長谷川聡先生（北海道医療大学）が「被災と地域コミュニケーション～札幌市北区の被災現場からのショートレポート」として実践を報告されました。2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、札幌市北区では最長3日の停電を経験し、防災対策や地域住民の対処行動に問題点が多々あることが判明しました。長谷川先生が主宰している地域月例勉強会での実践内容

（KJ法的方法論によるワークショップ）が紹介され、今後の住民どうし、特に在宅支援者と住民ボランティアのコミュニケーション、住民と医療・福祉施設のコミュニケーション問題の見直しや構築について報告がなされました。

今回の研究会では、3つの学会がそれぞれに有しているフィールドが色濃く出ていました。今後も連携を密にしながら、研究活動を進めていくことの重要性を再認識しました。

## 東北支部

(支部長 関 久美子)

2018年度の東北支部定例研究会は、2019年3月24日（日）に仙台市東北工業大学一番町ロビーで開催されました。各発表者の多様な専門からのコミュニケーションに対するアプローチは大変興味深く、また東北支部ならではのアットホームな雰囲気の中でディスカッションや意見交換が行われました。研究発表の詳細は以下のとおりです。

1. 「児童・生徒の不登校・いじめ問題の本質—文部科学省平成24-29年度宮城県分の統計調査の分析から—」 小島 正美（NPO 法人地域情報モラルネットワーク）
2. 「外国人患者に対応できる拠点病院の整備と通訳配置における多言語対応の考察」 川内 規会（青森県立保健大学）
3. 「モンゴルの愛国心教育—グローバルとローカルとの狭間で：脱ソ連以降のモンゴルの教育から—」 Zorigbaatar Altantuul（尚絅学院大学大学院生）
4. 「英語コミュニケーション能力養成に向けた課題」 會澤 まりえ（尚絅学院大学）

2019年度の第20回東北支部研究大会は岩手大学の小林葉子先生を大会委員長として、岩手県内で開催予定です。20回目という節目の大会ですので、ぜひとも多くの地域から沢山のみなさまにお越しいただければと願っております。内容・日程等の詳細が決まりましたら、東北支部のホームページ等でお知らせいたしますので、ご確認ください。みなさまのご参加をお待ちしております。

## 関東支部

(支部長 小西 卓三)

JCA 関東支部は、2019年3月2日に二松學舎大学九

段キャンパスで卒業論文・卒業制作合同発表会と「コミュニケーション学の現在」と題したシンポジウムを行いました。

卒業論文・卒業制作合同発表会では、計4つの論文・製作物の発表と、それぞれの発表の後フロアからの質疑応答が交わされました。Twitter における独特の若者表現からオカルト雑誌の広告の分析、地域振興イベントまで、トピックは幅広く、内容も素晴らしいものでした。発表の後運営委員の間で投票が行われ、昭和女子大学の宮森紀江さんによる「日本におけるガールカルチャー、ガリーカルチャーの現在」が最優秀賞として表彰されました。

同日行われたシンポジウム「コミュニケーション学の現在」では、2017年の第47回年次大会テーマ「コミュニケーションと未来」を引き継ぎ、現会長の高井次郎先生(名古屋大学)、前会長・現理事の五島幸一先生(愛知淑徳大学)、そして現副会長の青沼智先生(国際基督教大学)からそれぞれお話を頂いた後、フロアを交えて活発な議論が交わされました。

イベントは約30人の参加者・見学者を迎え、盛況のうちに終わりました。

## 中部支部

(支部長 森泉 哲)

### 1. 支部研究大会開催の報告

2019年3月9日(土)に今年度2回目となる研究会を開催しました。今年度から試みとして9月と3月に研究会を行うことにし、9月はどちらかという勉強会の雰囲気、3月は従来12月に開催していた支部大会を踏襲するという形を意識しています。

支部大会は、今年度も他支部の先生からのパネルセッション、基調講演2本という盛りだくさんの内容となりました。

当日のプログラムでは、まず発表者として柿田秀樹先生(獨協大学)・松島綾先生(立命館大学)、レスポネントとして宮崎新先生(名城大学)を迎え、「17世紀の表象文化とコミュニケーション学」についてのパネルが行われました。歴史的表象についてコミュニケーション学的視点からの分析という学の奥深さを感じられる発表でした。

次に、昨今話題となっているオリンピック、通訳ボランティアの言説に關係して集中的に検討するため、2本の基調講演が行われました。まず、実際に司法通訳者として活躍されておられる毛利雅子先生(豊橋技術科学大学)から「日本における司法通訳の現状と今後の課題」というタイトルで通訳者育成をめぐる様々な課題についてお話をいただきました。通訳というコミュニケーションの橋渡しをするプロとしての職業に対して、まだまだ理解がなされていない現状について、具体的な経験談から語られ、説得力がありました。

次に、小坂貴志先生(神田外語大学)からご自身が全国外大連合主催のスポーツ大会の通訳ボランティア育成プログラムに関わっておられるという視点から、「通訳ボランティアの存在論と育成上の課題」というタイトルで、ボランティア×通訳の意義やその言説について語っていただきました。その後は、お二人の対談やフロアの方を交えたディスカッションとなり、活発な意見交換がなされ、今後の通訳(ボランティア)育成の課題・方向性について考えるよい機会となりました。

### 2. 支部ニュースレターの発行

宮崎新先生(名城大学)・佐藤良子先生(愛知大学)に編集の労をおとりいただいたニュースレターが3月末に発刊されました。大変盛りだくさんかつ中身の充実したニュースレターになっております。ウェブからお読みいただけますので、一読していただけますと幸いです。

<http://www.caj1971.com/~chubu/newsletter.html>

## 関西支部

(支部長 守崎 誠一)

2019年3月23日(土)に、関西大学梅田キャンパスにて、2018年度の関西支部大会が開催されました。参加者は5名(委任状を9名が提出)。最初に、関西支部長の守崎誠一が挨拶したのち、支部総会を開催しました。冒頭、決算報告をこれまでの3月から11月に変更したい旨の提案があり、審議の結果、11月に変更することを了承しました。それに伴って、同日に予定さ



れていたすべての審議を2019年11月30日(土曜)に開催予定の2019年度支部大会でおこなうことが決定されました。加えて、野島晃子氏(立命館大学)に対して新たに運営委員(会計)を依頼することが決定されました。

その後、守崎誠一より「入管法改正と在日留学生」をテーマとする口頭発表がおこなわれた後、それを基に出席者間で活発な議論がおこなわれました。



世界中の人・モノが常時接続可能になった今なお、研究者/生活者にとって、地理的な隔たりは大きな意味を持っているように思います。中央から遠く離れたこの場所で、私たちは何をすべきであり、何ができるのでしょうか。「地域」をフィールドや対象とした研究・活動に注目することによって、「地域」で研究することの意義も検討したいと考えております。そこから、私たち自身の、そして中四国支部の在るべき姿が見えるのではないのでしょうか。

ぜひ、6月の東京にてみなさまのご意見をお聞かせください。お待ちしております。

## 九州支部

(支部長 池田 理知子)

11月2日(土)に福岡女学院大学(福岡市)にて第26回支部大会を開催いたします。大会実行委員長は、池田理知子です。大会テーマは「メディア・コミュニケーション～ローカル・メディアの役割」で、開催校の人文学部メディア・コミュニケーション学科の後援をいただいております。基調講演やシンポジウムを行う予定ですが、詳細は未定です。決まり次第、九州支部のホームページ(<http://www.caj1971.com/~kyushu/>)でお知らせいたしますのでそちらをご覧ください。

発表申込みの締切は8月31日(土)です。九州支部以外の方でも、論文発表やパネルの企画を受け付けておりますので、ご一考いただければと思います。こちらも詳細はホームページでご確認ください。

## 中国・四国支部

(支部長 脇 忠幸)

中国四国支部では、第22回支部大会を以下のように予定しております。

日時:2019年11月下旬の土日いずれか1日(調整中)、

13:00 開始

場所:福山大学 宮地茂記念館

(福山駅北口を出てすぐ)

全体テーマ:コミュニケーション教育・研究と地域

シンポジウム:未定

※テーマに沿った登壇者&内容を予定

前回(第21回)から「地域」をテーマの中核に据え、新たな試みとしてシンポジウムを企画いたしました。今回も引き続き同じテーマで議論を深めたいと考えております。

この「地域」は、【地域社会】【地域性】【大都市圏の対立概念としての〈地方〉】を意味します。世界から見れば、日本もひとつの「地域」ということになるでしょう。「地域」が抱える問題(社会問題や「地域」概念そのものの問題など)をコミュニケーションという切り口から考えます。

## 連絡先

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

日本コミュニケーション学会事務局

Fax: 03-3368-2822

[jcom-postf@\[をを入れる\]bunken.co.jp](mailto:jcom-postf@[をを入れる]bunken.co.jp)

<http://caj1971.com>

# NL の電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニューズレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、107号より電子版に完全移行いたしました。当面はPDF版をHPに掲載する予定ですが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築してのメールマガジンの配信も視野に入れ、さらに検討を続けていきます。

つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にてメールアドレスの登録をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください）。今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

- ① 本学会 HP (<http://www.caj1971.com>) にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き (Membership)」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下「1.オンラインでWeb登録情報確認・変更、会費残高照会のページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。

\* ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、**学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。**

- 会員番号は、学会からの郵送物の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

## 編集後記

ニューズレター第121号をお届けいたします。

今回は年次大会直前号で、私も年次大会の実行委員として加わっています。さらに、別団体である日本ディベート協会と共同で行われる日米交歓ディベートと米国代表チーム コーチの特別講演にも深くかかわっております。是非多くの方々に大会にお越しいただき、充実した時間を過ごしていただければと思います。

広報局 ニューズレター担当 田島慎朗